

平成23年度全道中学選抜大会報告

釧路トレセンU15／16担当
中瀬古 大

(1) 道中学選抜大会の概要

昨年度初めて開催された大会で、各地区U15トレセン選手が対象である。日程は10月22～24日で、会場は札幌アミューズメントパークである。目的としては、各地区トレセンの活動の集大成に位置づける部分と、中学校3年生の受験等によるブランクをできるだけなくすことなどが挙げられる。エントリーは16名で、予選リーグは8人制で25分前後半（前後半でメンバー入れ替え）、順位決定戦は11人制という形であった。昨年度は、根室トレセンと釧路U14との合同参加であったが、今年度は、釧路U15のみで構成することができた。

(2) 参加メンバー

八重樫恭介・宮原勇哉・石橋成悦・干場輝創・菊池悠太郎・木谷恋太郎（以上SC釧路6名）
木村希澄・大崎諒将・松井勇弥・二木悠伍（以上景雲中4名）
山内誉樹・丸山恭平・松原竜毅・熊谷雄斗（以上Rシュペルブ3名）
川渕祥太（春採中） ※GK武田樹（鳥取西中）が辞退

(3) 試合結果**(1日目 10/22)**

①VS 室蘭 4 (3-2・1-5) 7	(得点者) 干場・木村・宮原・丸山								
(前半)	(後半)								
<table border="1"> <tr><td>松井</td></tr> <tr><td>宮原 石橋 木村</td></tr> <tr><td>干場 大崎 川渕</td></tr> <tr><td>木谷</td></tr> </table>	松井	宮原 石橋 木村	干場 大崎 川渕	木谷	<table border="1"> <tr><td>丸山</td></tr> <tr><td>山内 二木 菊池</td></tr> <tr><td>熊谷 八重樫 松原</td></tr> <tr><td>木谷</td></tr> </table>	丸山	山内 二木 菊池	熊谷 八重樫 松原	木谷
松井									
宮原 石橋 木村									
干場 大崎 川渕									
木谷									
丸山									
山内 二木 菊池									
熊谷 八重樫 松原									
木谷									

(概評) 前日のミーティングで、「コンパクトな守備」からの「攻撃への切り替え」を課題として、全員でハードワークすることを要求してゲームに入った。選手たちは非常に守備の意識が高く、前線でのプレスでボールを奪い、そこからの早い関わりで3点を奪い、理想的な入り方ができた。しかし、15分を過ぎたあたりから運動量が激減し、サポートが足りずに孤立し、奪われてカウンターを受ける悪い流れに陥ってしまい、2点を失って前半を折り返した。後半は、ボールサイドへの守備意識は高かったが、奪ってからのサポートが足りず、ボランチやFWへのギャップへのクサビが全く入らず、サイドで詰まってはボールロストし、カウンターを受けるという流れになり、失点を重ねた。ゲームとしては、「幅と厚みをとってギャップを使う」という部分が大きな課題となった。また、コンディション面で選手によってばらつきがあり1試合通じてパフォーマンスを維持できなかったことも大きな問題であった。

②VS 札幌 4 (3-7・1-6) 13	(得点者) 松井・宮原2・丸山								
(前半)	(後半)								
<table border="1"> <tr><td>松井</td></tr> <tr><td>宮原 石橋 木村</td></tr> <tr><td>干場 大崎 川渕</td></tr> <tr><td>木谷 (松原)</td></tr> </table>	松井	宮原 石橋 木村	干場 大崎 川渕	木谷 (松原)	<table border="1"> <tr><td>丸山</td></tr> <tr><td>山内 二木 菊池</td></tr> <tr><td>熊谷 八重樫 松原</td></tr> <tr><td>石橋</td></tr> </table>	丸山	山内 二木 菊池	熊谷 八重樫 松原	石橋
松井									
宮原 石橋 木村									
干場 大崎 川渕									
木谷 (松原)									
丸山									
山内 二木 菊池									
熊谷 八重樫 松原									
石橋									

(概評) 札幌はほぼSSSを中心としたチーム編成で、非常に技術が高く、それに対して、いかにバイタルエリアにいい形でしかけのパスを入れさせないかを課題にして、ゲームを行った。しかし、前後半通じて、質的には大きな差を見せつけられ、特に、「クサビのパスに対してのサポートの質」や「オフザボールの質」などの面で特にディフェンスの際には選手たちも対応できない場面が多く見られた。また、GKの木谷が前半途中で相手との接触で負傷交替し、フィールドプレーヤーの松原、石橋が出場したこともあり、非常に難しい試合となった。しかし、釧路の選手が「連動したディフェンスを的確に行っていたとき」や、「移動中に見て判断し関わる事ができていくとき」には断片的であるが通用する場面も見られた。また、1試合目できなかつたギャップを使ったポジションを勇気を持ってチャレンジするよう指示したところ少し改善が見られた。

③ V S 小樽 1 (1-1・0-0) 1 (得点者) 松井

(前半)

	松井	
宮原	石橋	木村
熊谷	八重樫	松原
	木谷	

(後半)

	丸山	
山内	二木	菊池
干場	大崎	川渕
	木谷	

(概評) すでに2敗したため、上位の順位決定戦進出にはワイルドカードでの進出のみ可能性が残された状態でのゲームとなった。進出には得失点差の関係上できるだけ点数を多くとって勝つことが必要であったため、リスクを冒して点数を取りに行くゲームを行った。前半は積極的なディフェンスから数多くのチャンスがあったが、ゴール前の落ち着きのなさやラストパス、フィニッシュの精度を欠き、逆にカウンターで失点する苦しい流れとなった。後半は前に急ぎすぎ、中盤でボールが収まらず、攻め手を欠く展開となり、最終的にドローに終わり、下位順位決定戦に回ることになった。プレッシャーがかかったときに幅と厚みを取り、全体でボールを動かしながらサッカーをすることや、バイタルエリアに入ってからの観る力や判断力が大きな課題となったゲームであった。

(2日目 10/23)

① V S 千歳 2 (0-0・2-2) 2 (得点者) 木村・松井

(前半)

	石橋	松井
山内		菊池
	木村	宮原
川渕		八重樫
	大崎	干場
	木谷	

(後半)

	石橋	木村
山内		松原
	二木	宮原
熊谷		八重樫
	大崎	丸山
	木谷	

(概評) 前日の課題をクリアすべく、「幅と厚み」のあるポジショニングをとり、ギャップを使うことを短時間ではあるがトレーニングで修正してゲームに入った。昨日に比べて効果的なしかけのパスが入るようになった分、パスがスムーズにまわるようになったが、荒天による難しいピッチコンディションに苦しむ場面も多く見られた。クサビが入るようになった分、相手の背後のスペースの利用が新たな課題となった。局面でのサッカーでは技術が発揮されているが、ピッチ全体を見渡したなかで攻撃の優先順位を考えてプレーすることやパスが入りそうなタイミングを予測して動きだしをする部分はまだ欠けている。また、ディフェンス面での課題では、ボールサイドのアプローチの意識は高まっているが、ボールに集中しすぎ、ギャップを開けてしまう部分が大きな課題となった。特に、ボランチが2人ともボールにつられて寄りすぎてしまい、センターバックの前のスペースを使われてしまう場面が多く、ピンチを招いていた。後半は二木をワンボランチ気味で入れたことで、バランスが修正され、ゲームは支配したが、カウンターから2点を失いドローに終わった。

② V S 網走 1 (1-0・0-1) 1 (得点者) 八重樫

(前半)

	石橋	松井
山内		菊池
	木村	宮原
川渕		八重樫
	大崎	干場
	松原	

(後半)

	石橋	木村
山内		菊池
	二木	宮原
熊谷		八重樫
	大崎	丸山
	松原	

(概評) 前のゲームの課題から、クサビに対しての関わり方を再確認し、クサビで相手をつり出して、そのスペースを使う意識を持たせてゲームを行った。内容的にはこの遠征中でも非常に良い出来で、我々がやろうとするサッカーが良く表現できていたように感じる。特に八重樫のゴールは幅を使いながらクサビで相手を引き出し、サイドからクロスを入れ、逆サイドのサイドバックの八重樫がファーサイドから詰めるという理想的なゴールであった。

しかし、その後の決定機を逃し続け、試合終了間際にボールサイドに集中しすぎていた裏側のサイドのスペースを使われ、同点とされ、痛いドローに終わった。

(3日目 10/24)

①VS 小樽 4 (2-0・2-0) 0 (得点者) 石橋・宮原・木村・松原

(前半)

石橋	宮原
山内	松井
木村	二木
川渕	八重樫
大崎	干場
木谷	

(後半)

石橋	木村
山内	松原
菊池	宮原
熊谷	八重樫
大崎	丸山
木谷	

(概評) 連戦と荒天による疲れは見られたが、最終日に結果も内容もいい形で締めくくろうということで、試合に臨んだ。相手のアプローチが甘く、スペースを与えてくれる分自由にプレーはできたが、ボランチなどで自由度の高すぎる部分があり、内容的には、本来の出来ではなかった。しかし、昨日までの決定力不足の反省から、バイタルエリアで落ち着いてプレーをするという課題に対しては成長が見られ、落ち着いて相手のディフェンスのギャップを使って得点を重ね、今大会での初勝利を挙げる事ができた。

②VS 空知 2 (2-1・0-2) 3 (得点者) 木村・宮原

(前半)

木村	松井
山内	八重樫
石橋	宮原
熊谷	川渕
大崎	干場
木谷	

(後半)

木村	丸山
菊池	八重樫
石橋	宮原
松原	熊谷
大崎	川渕
木谷	

(概評) 最終戦と言うことで、選手たちも自分たちが求める結果と内容に向けて努力してくれた。しかし、守備への切り替えが疲れもあつてか、遅くなっており、特に後半は中盤にスペースを多く与えてしまい、相手に中盤を支配される展開となり、マークのズレやアプローチの遅れなどから逆転負けを喫した。最後の詰めを欠き、後半にカウンターを受けるという今回の大会の流れを引きずるような形の終わり方であった。結果としては通算1勝3分け3敗ということで、12位という残念な結果に終わった。

(4) 遠征の総括

今回の遠征は結果としては選手たちの実力を十分に反映させたものといえず、力を出させてやれなかった事に対しては私自身の責任を感じている。しかし、選手たちにもミーティングで話したが、結果も重要ではあるが、それより重要なのは選手たちの今後の成長に向けての課題を感じる事だと考える。残念ながら、釧路の選手たちと道のトップレベルの選手たちとの間には明確な差は存在した。今後の課題をまとめることで、釧路の選手たちのレベルアップにつなげていただければと考える。

○「予測」の遅さ

- ・・・攻守共に、ボールが動いてからサポートやアプローチ、カバーリングのポジショニングをとっている。観て予測して動くことの習慣づけが必要である。

○「連動性」・・・上記と重なるが、ボール周辺の局面の関わりはあるが、逆サイドや2列目などの選手たちの関わる意識が薄い。

○決定力・・・シュートスキルももちろんであるが、それに至るバイタルエリアでの落ち着きが札幌の選手たちとは明確な差があった。

○ポジショニング・・・攻守ともにボールサイドに集中しすぎる傾向があり、3人目の選手のポジショニングが不適切なケースが多かった。

○トレーニングの継続性・・・大会終了後にトレーニングの継続性を失ってしまっている選手が多く、コンディション面で準備が不十分な面が見られた。また、受験勉強などによる辞退者もあり、選手層の面でも課題を残した。

○遠征の経験値の向上・・・以前の釧路の選手は、遠征に来て普段と異なる環境においてメンタル面で力を発揮できずに終わったり、オフザピッチにおいて生活リズムやモラルを崩してしまう選手が多くいたが、カブスリーグへの参戦などの各チームレベルでの厳しい経験が背景となっているのか、自立して行動できる選手がかなり増加していると感じる。これは釧路としては、一つの明るい兆しといえる。